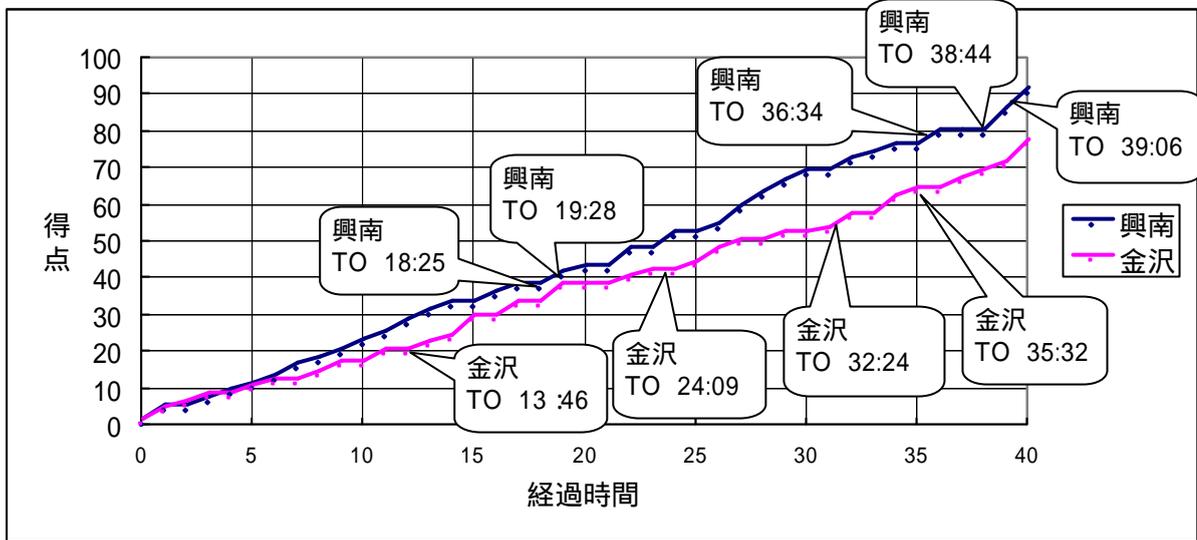


大会名	平成19年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会第60回全国高等学校バスケットボール選手権大会	E3	13:20	男子 3回戦													
		興南 90 沖縄	<table border="1"> <tr><td>22</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>20</td><td>-</td><td>21</td></tr> <tr><td>26</td><td>-</td><td>14</td></tr> <tr><td>22</td><td>-</td><td>25</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	22	-	16	20	-	21	26	-	14	22	-	25	-	-
22	-	16															
20	-	21															
26	-	14															
22	-	25															
-	-	-															
期日	2007年(平成19年)7月31日(火)																
会場	唐津東高等学校																

主審加藤昌樹 副審吉田憲生



興南

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
4	城間 勇人	2	0	1	0	1
5	岸本 行央	19	2	6	1	3
6	金城 徹	22	2	7	2	2
7	富山 英作	21	2	7	1	4
8	金城 幹矢	13	0	4	5	0
9	徳永 海刀	0	0	0	0	0
10	玉城 偉光	6	0	3	0	2
11	上江田 真	0	0	0	0	0
12	外間 博也	0	0	0	0	0
13	山内 盛久	7	1	2	0	3
14	赤嶺 洸太	0	0	0	0	0
15	新里 優太	0	0	0	0	0
16						
17						
18						
コーチ	井上 公男					
	合計	90	7	30	9	

金沢

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
4	広瀬 誠	18	3	4	1	5
5	東 壤	6	0	3	0	2
6	瀬戸 拓也	2	0	1	0	0
7	林 大悟	12	0	4	4	2
8	那谷 一樹	13	0	5	3	5
9	柴田 祐希	18	1	7	1	0
10	表 冨々朗	5	0	2	1	4
11	重田 統哉	0	0	0	0	0
12	北村 裕樹	2	0	1	0	2
13	寺井 海	0	0	0	0	0
14	島田 渉平	0	0	0	0	0
15	地中 翔	0	0	0	0	0
16						
17						
18						
コーチ	大館 慶徳					
	合計	76	4	27	10	

はスターター (はキャプテン) 3P...3点シュート 2P...2点シュート FT...フリースロー F...ファウル

戦評

共に粘り強いディフェンスから速攻を得意とする金沢と興南の戦いは興南が90対76で勝利した。

第1P、共にハーフコートマンツマンでスタート。興南#6金城徹のドライブの得点から始まり、金沢は#4広瀬の3Pで対抗する。その後興南は#8金城幹のドライブなどで得点を重ねる。一方金沢は#9柴田のドライブやジャンプシュートなどで対抗し、残り4分まで一進一退の好ゲームとなる。興南は#13山内の連続得点で引き離しにかかるが、粘りを見せた金沢#4広瀬の3Pが決まり、22対16興南リードで終了。第2P、金沢はオールコート1-2-2ゾーンやハーフコート3-2ゾーンのチェンジングディフェンスをしかけるも、興南はこれにうまく対処し、主導権を渡さない。金沢は#4広瀬の速攻などで必死に食い下がるが、興南は内外バランスよく得点し42対37で第2P終了。

第3P、興南は#5岸本の3連続得点などで波に乗り、開始4分過ぎに51対41と2桁得点差となる。金沢はタイムアウト後、#8那谷のゴール下などで再び差を詰める。しかし、ここでも興南#5岸本が連続ドライブなどで再び突き放し68対51と更にリードを広げる。第4P、序盤からお互いファウルがかさむが、金沢はフリースローの確率が悪く思うように点差を縮めることができない。中盤、金沢は#9柴田の4連続得点、#7林のドライブなどで再び差を詰めるが、興南は#10玉城がゴール下を落ち着いて沈め、またもや突き放す。最後の最後までアグレッシブにボールを追った金沢だったが、落ち着いて対処した興南が勝利しベスト8進出を決めた。

記者 池田 聖司 (所属) 佐賀県バスケットボール協会